

姫路市SDGs未来都市計画の進捗状況について

1. 2030年のあるべき姿

(1) 計画タイトル

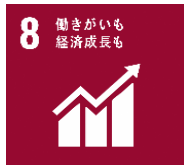
姫路市SDGs未来都市計画 ～世界をつなぐSDGs推進都市ひめじの夢～

(2) 2030年のあるべき姿

SDGs未来都市計画を推進することにより、世界遺産国宝姫路城に頼るだけでなく、国際人材を育成する先進都市を目指す。当市で郷土愛を育み、脱炭素型のライフスタイルを身につけたSDGsマインドを持つ若者が、姫路地域で活躍しつつ、世界と本国をつなぐ「架け橋」となっている姿を目指す。

【方向性】 産業～世界に誇れる価値を生む地域産業の確立～【経済】
市民活動～多様な主体が輝くまち～【社会】
環境～環境にやさしいまち～【環境】

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経 済		社 会		環 境					
	8 働きがいも 経済成長も		4 質の高い教育を みんなに		7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		12 つくる責任 つかう責任		13 気候変動に 具体的な対策を

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

	KPI（指標）	当初数値		最新実績値		目標値		達成度
経済	市内総生産（名目）	2兆4,031億円	2017年度	2兆8,096億円	2022年度	2兆8,837億円	2030年度	84.6%
社会	定住人口	53.6万人	2015年10月	51.7万人	2025年4月	51.8万人	2030年10月	98.7%
環境	市域の温室効果ガス排出量の削減	11,188kt-CO ₂	2013年度	8,687kt-CO ₂	2020年度	5,813kt-CO ₂	2030年度	46.5%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

・市内総生産（名目）については、対前年度比（前年度2兆7,300億円）で約3%増加しており、目標達成に向け順調に推移している。今後も対前年比増加を維持できるよう、外部環境の変化に素早く対応していく柔軟な企業経営の確立の促進や、「ものづくりのまち」としての認知度の向上を通して、市内企業の製品の高付加価値化や人材確保、企業誘致等を進める。

・定住人口については、年々減少傾向にあり、2025年4月1日現在において52万人を割っている（姫路市の推計人口より）。減少の一つの要因として若者の東京圏や大阪府への流出が挙げられる。2024年度に本市の魅力等を表現したブランドメッセージ・ロゴを新たに作成したことから、これを活用して市民のシビックプライド醸成と都市イメージの向上を図るとともに、子どもたちがいきいきと活躍できる教育環境の整備等に取り組む。

・市内高校や大学、企業等で設置するコンソーシアムの取組の支援も行い、地域経済を担う高度人材の育成、地域の稼ぐ力を高める人材確保に努め、外国人留学生を含め多様な人材が活躍できる多文化共生社会の実現を進める。

・2023年3月に「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を改定し、国や県の計画と整合を図りつつ2030年度の温室効果ガス削減目標を引き上げた。（2013年度比26.1%→48%）

・2013年度から2020年度にかけて2,501kt-CO₂削減できており、目標の達成に向けて市民・事業者の取組促進や再エネの導入促進など多様な分野で更なる脱炭素施策の強化を図る。

2. 自治体SDGsに資する取組

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

	取組例	KPI（指標）		当初数値		最新実績値		目標値		達成度
経済	・将来のSDGsを牽引する産業人材の育成 ・多様な人材が活躍できる労働環境づくり ・地域経済の持続的発展を支える企業集積の推進と創業支援 ・新製品・新技術の開発や成長産業への参入と脱炭素化への投資促進 ・多様な担い手の育成（IoT等、先端技術を活用した生産性の向上） ・良質な交流を生み出す観光の推進と体制構築 ・姫路の歴史的・文化的な魅力を伝えるシティプロモーションの展開	①	製造品出荷額等の全国シェア（3年平均）	0.74%	2016～2018年	0.73%	2020～2022年	0.74%	2024～2026年	98.7%
		②	製造品出荷額等の県内シェア（3年平均）	14.97%	2016～2018年	14.56%	2020～2022年	14.97%	2024～2026年	97.3%
		③	市内従業者数	244,970人	2016年	256,076人	2021年	256,076人	2026年	100%
		④	農業産出額（推計）	6,330百万円	2018年	7,450百万円	2023年	6,180百万円	2026年	120.5%
社会	・国際感覚豊かな人材の育成 ・国際交流・協力活動のさらなる活性化 ・次世代の文化芸術を担う人材の育成 ・伝統文化継承のための取組の推進 （※）アクリエひめじ*、キャスパホール、市民プラザ、バルナソスホール、平和資料館、水族館、姫路科学館、美術館、姫路文学館、書写の里・美術工芸館、埋蔵文化財センター *当初数値は、アクリエひめじ稼働前であったため、文化センターと音楽演劇練習場の入館者数を合算	⑤	東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）・大阪府への転出超過数	994人	2019年	1,078人	2024年	731人	2026年	▲31.94%
		⑥	国際交流イベントの参加者数	20,958人	2019年度	15,515人	2024年度	21,000人	2026年度	▲12959.5%
		⑦	文化拠点施設（※）の入館者数	1,338,401人	2017～2019年度平均	1,340,479人（速報値）	2024年度	1,684,000人	2026年度	0.6%
環境	・水素エネルギーの利活用に向けた環境整備 ・強靱性（レジリエンス）の向上に資する環境活動の推進 ・地域循環共生圏の拡充 ・地球温暖化対策に寄与する脱炭素型のまちづくりの推進 ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進	⑧	1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	508.7g	2019年度	463.3g	2024年度	491.7g	2026年度	267%
		⑨	一般廃棄物の資源化率	15.0%	2019年度	14.3%	2024年度	14.8%	2026年度	96.2%
		⑩	一般廃棄物の最終処分量	15,573t	2019年度	11,835t	2024年度	14,282t	2026年度	289.5%
		⑪	市域の温室効果ガス排出量の削減	11,188kt-CO ₂	2013年度	8,687kt-CO ₂	2020年度	8,026kt-CO ₂	2026年度	79.1%

(2) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

・製造品出荷額等のシェアについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により低下していたが、少しずつ回復傾向にある。この傾向を維持するべく、中小企業の生産性向上のためのIT化等を促していく。 ・市内従業員は、女性や高齢の従業員が増えてきていることが要因で、増加傾向にあると推測される。 ・農業産出額については、鳥インフルエンザの流行による卵の価格上昇も相俟って増加している。 ・東京圏、大阪府への転出は依然として高い水準で推移しており、進学や就職等を契機に若者が大都市圏へ流出している。2024年度に本市の魅力等を表現したブランドメッセージ・ロゴを新たに作成したことから、これを活用して市民のシビックプライド醸成と都市イメージの向上を図るとともに、子どもたちがいきいきと活躍できる教育環境の整備等に取り組む。 ・アフターコロナ時代に入り、イベントの参加者数は回復傾向にあるが、2023年度(1,494,620人)と比較すると減少している。この理由として、2023年度では美術館において集客力の高いチームラボ展が開催され通常の約3倍程度の来館者が訪れたこと等により通常の入館者数よりもかなり高かったことが考えられる。なお、2024年度においては、水族館での企画展「やっぱり見たかったん！！危険生物展」のほか、2024年6月にはアクリエひめじで「防災グローバルフォーラム2024」が開催されるなど、規模の大きい事業の実施により2022年度(1,223,132人)より増加している。今後は多くの方に文化施設へ来館いただけるよう事業の工夫等に努める。 ・2019年度に比べ2024年度の家庭ごみの発生量は資源化物を含め総量として減少している。 ・事業者に対する紙のリサイクルの啓発、食品ロス削減もったいない運動の啓発、ボトルt oボトルリサイクル事業を更に推進し、ごみ排出量の削減及び資源化率の向上を図る。 ・「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき脱炭素関連施策を推進し、市域における脱炭素型のライフスタイルの定着や脱炭素型の企業経営の定着を図る。 ・「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」で掲げた目標の達成に向けて市民・事業者の取組促進や再エネの導入促進など多様な分野で更なる脱炭素施策の強化を図る。
--